

京丹後市立図書館

2025年度

おすすめの本

中学生

『おじいちゃんの手』(光村教育図書)

マーガレット・H.メイソン/文 フロイド・クーバー/絵 もりうち すみこ/訳



そうだと、ジョーゼフ。おまえのその手は、なんでもやれる。やれるんだよ。人種差別と闘ってきた祖父が、新しい時代を生きる孫へ語りかける絵本。

『「いたいっ！」がうんだ大発明 ばんそうこうたんじょうものがたり』(光村教育図書)

バリー・ウィッテンシュタイン/文 クリス・スー/絵 こだま ともこ/訳



不器用なジョゼフィーヌさんは、料理の最中、指先を切ったり、やけどをしたりで手は傷だらけ。包帯などを作る会社に勤める夫のアールさんは、なんとかしてあげようと考えて…。誰でも自分で貼れる救急ばんそうこうの誕生物語。

『わたしが正義について語るなら』(ポプラ社)

やなせ たかし/著



今のように正義を考えるようになったきっかけ、正義の戦い方、未来のこと…。人に聞きたくても決まり悪くて聞けないほど真直ぐなテーマである「正義」について、アンパンマンの作者・やなせたかしが真正面から語る。

『Q→A』(講談社)

草野 たき/著



自分のキャラなんてわかんないや…。アンケートが引きだす、ややこしくて、ばからしくて、せつない本音。中学3年生の胸に宿る思いを描く青春小説。

『一〇五度』（あすなろ書房）



佐藤 まどか/著

都内の中高一貫校に編入した、中学3年生の真は椅子オタク。超中学生級モデラーの梨々とタッグを組み、プロダクトデザインの登竜門「全国学生チェアデザインコンペ」に挑む…! 椅子デザイナーを目指す少年の、熱い夏の物語。

『ドリーム・プロジェクト』（PHP研究所）



濱野 京子/著

中学2年生の拓真は、かつて過ごした古い家を懐かしむ祖父を気にかけていた。家屋の修繕を願っていた拓真は、クラウドファンディングで古民家再生を試みることに…。

『鈴の送り神修行ダイアリー』（岩崎書店）



山下 雅洋/作 酒井 以/画

不登校の中2の鈴は、夏休みに田舎に帰省したが、池に落ちて溺れてしまう。目覚めた場所は、この世とあの世の「あわいの世界」。鈴はそこで送り神の修行をして、死を通じて生きることを見つめ直す7日間を過ごし…。

『雲を紡ぐ』（文藝春秋）



伊吹 有喜/著

壊れかけた家族は、もう一度、ひとつになれるのか? 羊毛を手仕事で染め、紡ぎ、織りあげられた「時を越える布」ホームスパンをめぐる、親子三代の心の糸の物語。

『「また、必ず会おう」と誰もが言った。偶然出会った、たくさんの必然』（サンマーク出版）



喜多川 泰/著

飛行機に乗り遅れ、東京に取り残された和也。故郷・熊本へと向かう道すがら「普通の人たち」と出会い、その日常に触れながら、自分の日常を見直し、「生きる力」についても学ぶ。ひとりの若者の旅を通して描く、輝きの物語。

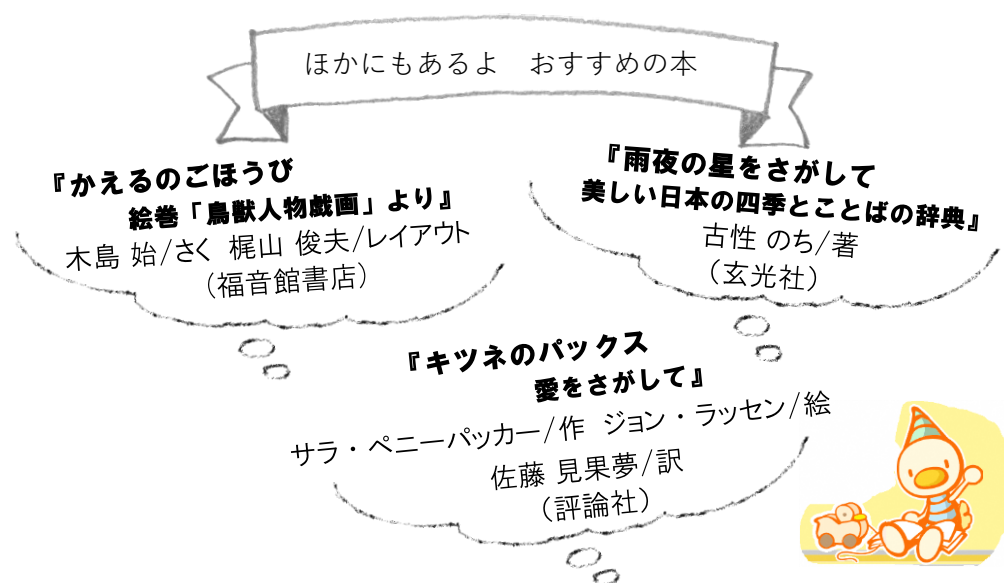
『青い鳥』（新潮社）



重松 清/著

先生はうまく話せない。だから“たいせつなこと”しか言わない。いじめ、自殺、虐待。吃音の教師を通して答えのない問題に向き合い、伝えたい思いを描く感動作。

無断での複写・転載を禁止します。本の内容紹介はTRC MARCより転載しています。



貸し出し中の本は予約もできます。くわしくは職員におたずねください